

7月20日(土曜日)午前10時から12時まで、県立広島大学1212会議室・1215会議室にて、センター主催によるHbpMSセミナー2019 遠藤邦夫公開講座①『地域包括ケアシステムに求められる薬局の姿とは』を開催いたしました。

本セミナーでは、本格的な人口減少と超高齢社会に対応するために地域包括ケアシステムの取り込まれる薬剤師の将来展望を確認して、これからの地域に根差した活動を見据えた組織的な薬局経営の在り方を考える機会を提供することを目的としました。

今回は、薬局経営に関心のある医療介護関係の機関や企業の方々を中心に40名余りが集い、開演にあたりセンター長から当センターの紹介と今回のセミナーの趣旨説明を行なったあと、遠藤邦夫 HBMS 教授から講師の飯島康典氏(社団法人上田薬剤師会会長)のご紹介がありました。

飯島氏は医薬分業の先進地域といれる長野県上田市を拠点にかけつけ薬局の実現に取り込まれる一方で、国が進める健康サポート薬局の先駆けとなる面分業を推進してこられました。

講演では、まず、薬局の現状とこれからのグランドデザインが示され、薬剤師会や薬局共同組合、薬剤師連盟などを中心とした薬局再編に係わる政策や調剤薬局の動向が紹介されました。続いて、イイジマ薬局による地域住民に寄り添った薬剤師による相談体制が紹介され、患者目線で見たとときの調剤待ち時間のストレスを軽減する仕組みといった、薬剤師のカウンセリング機能が求められることを説明されました。そして、最後に地域包括ケアシステムの構築に照らして、薬局が地域住民と顔の見える関係であることの重要性を示唆され、高齢を迎えて「虚弱(フレイル)」の要介護予備軍となるの方々に対して、薬剤師が思いやりや気づきを感じ取るといった、デンマーク、スウェーデンなどで進むサービスプログラムから学ぶべきことが多くあり、「予防」「相談」による地域密着型の薬局の本来あるべき姿から、生活者目線での医薬品の安心・安全に貢献する経営の在り方を説明されました。

飯島氏の切れ味の鋭い解説振りに聴講者の皆が聞き入り、講義の後の質疑応答も活発で時間一杯となって講演を終了いたしました。



HbpMSセミナー2019 遠藤邦夫 公開講座①

地域包括ケアシステムに求められる薬局の姿とは

【日時】2019年 **7月20日** (土) 10:00~12:00
 【場所】 県立広島大学 1212会議室・1215会議室
 広島県広島市南区宇品東1丁目1-71
 【募集】 40名

スケジュール

10:00 セミナー開演
 10:10 ~ 10:25 挨拶 遠藤邦夫HBMS教授
 10:25 ~ 11:30 特別公開講座 【地域包括ケアシステムに求められる薬局の姿とは】
 ゲスト講師：飯島雅典氏(社団法人上田薬研(協会会長))
 ディスカッション 遠藤邦夫HBMS教授(ファシリテーター)
 11:30 ~
 12:00 セミナー終了 開演健児MBA業務推進担当室長

【受講料】 3,000円 HBMSウェブサイトからお申込み、お申し込み済の通知、申し込み完了
※お申込みは、お申し込みの申込書が終了した時点で有効となります。お申し込みをキャンセルしていただくことはできません。
 受講料の返金が終了した後に発生する中で、受講料の返金を受け取っていただくにはお申し込みの時にいただいたお振込先にご連絡ください。



HbpMSとは

HbpMS (Health Business and Management School + Health Policy and Management Studies)
 医療経営学(HbpMS: Policy and Management)の分野から、国に於ける高齢化社会の健康増進に資する研究を中心として、その成果を広く社会に還元する目的に於ける本学独自の研究推進のための国際的・学際的なプロジェクトにおける学際的な研究センター。

お申し込み方法 申込締切：2019年7月12日(金) 申し込みは、定員になり次第締め切ります。HBMSのウェブサイトにてお申し込みください。



HbpMSセミナー2019 遠藤邦夫 公開講座①

地域包括ケアシステムに求められる薬局の姿とは

【日 時】 2019年7月20日(土) 10:00-12:00
 【会 場】 県立広島大学 1212会議室・1215会議室
 【募 集】 40名
 【受講料】 3,000円



本セミナーの講師、飯島雅典氏(社団法人上田薬研(協会会長))は、薬業分野の先駆者といわれる長野県上田市において長年にわたり薬業の発展を促進され、現在、国が進めている健康サポート薬局の先駆けとなるような薬局を確立してこられました。そして今も日々、薬局の在り方を進化させようとしておられます。

すなわち同氏は、これからは在宅医療を支援し、またOTCや医療機器を用意して、地域住民が自宅で相談できる薬剤を輸入して頼りにされる薬が出来る地域ケアに対応する薬局の姿であると考えられておられ、そのことを表明されておられます。

そのためイイマ薬局には、薬局実務者だけでなく、医療従事者や厚生労働省の関係者も数多く訪ねて来られ、自分達薬局のやるべきことの参考にされています。

加えて、飯島氏は海外の薬局や薬研(学会)を数多く視察して、これからのわが国の薬局の姿についての調査・研究も行っておられます。今回のセミナーの講師では、特色ある経営を行っている「アンマークラスウェーデン」の薬局事情などについても写真なども交えてご説明をいただきます。